

黒牧15号ブイ設置予定海域海底地形調査

漁場環境科 浜 田 英 之

1 調査海域

平成10年度沿整事業で室戸岬東沖に設置予定の黒牧15号ブイに関し、図1に示す東西約10km、南北約8kmの海域の海底地形調査を実施した。

2 調査方法

水試調査船「土佐海洋丸」(48トン、750馬力)を使用し、平成10年4月22日に測深調査を実施した。主測線は南北方向に約1000m(0.5マイル)間隔で設定し、東西方向に3本の補測線を入れた。調査船は約12ノットの速力で航走させ、DGPS受信機およびプリンターを使用して1分間隔で測位とその記録を行った。調査中の航跡についてはコースプロッターでも描かせた。

測深儀としては調査船に装備されている28kc魚探(フルノFE-822、出力10KW)を使用した。今回の調査海域の水深は従来と比較して2倍近いので、海上保安庁水路部の指導を受けて水圧、水温、塩分の3要素に対する音速補正を行い、魚探による測読水深+10mを補正水深とした。

また、海底地形図には設置地点決定の際の参考となるよう、海上保安庁の指導上航路とされている海域を示す線を表示した。

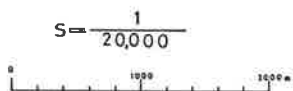
3 調査結果

東西約10km、南北約8kmの調査海域において、水深範囲は1240m~1310mで、調査海域の北側部分を除く大部分の海域は海底勾配が100分の1~150分の1と平坦で、等深線は概ね北西-南東方向に走っている。調査海域の北側部分や北東部分では海底谷らしき入り込みが見られ、海底勾配も50分の1より大きな海域が一部に見られる。

平成10年4月からは海上保安庁によるDGPSの運用が開始されており、黒牧ブイの設置工事の際もきわめて正確な海上位置決定が可能であると思われる。今回の調査海域の大部分の海域においては、例えば300mの設置位置のずれに対する水深の増減は約3m以内なので、設置工事の際のアンカー切り離しのタイミング決定もかなり楽に行えるものと思われる。

黒潮牧場15号設置予定海域海底地形

平成10年4月
高知県水産試験場測量



- 備考 1 測位にはDGPS受信機を使用した。
2 魚探による測得水深に+10mの概略
音速補正を行った。

